

「Forbes JAPAN」に掲載された内容について

学びの改革支援課

以下 Forbes JAPAN 6月号（4月25日発行）より引用

イノベティブ・エデュケーション 30

～子どものウェルビーイングを実現する変革者たち～

小中学校、教育委員会、有志プロジェクトを対象に、子どものために教育変革を起こし続ける組織・団体を、全国から30選出

学校

○伊那市立伊那小学校 ～通知表、時間割、チャイムなしの公立校～

「探究型の総合的学習」の先進事例として有名な長野県の公立小学校。60年以上も通知表がなく、時間割やチャイムもない。また、ヤギや豚、ニワトリといった動物も飼育しているユニークな教育活動について、長い歴史を持つ学校だ。最大の特徴は、教育課程の中心に「総合学習」「総合活動」を置き、全学年が、学級単位で探究的なテーマに取り組んでいる点である。

○軽井沢風越学園 ～「新しい普通」をつくる学校～

2020年4月に開設した一条校。幼小中混在の12年間一貫校で、連続性を大切にしたいカリキュラムを志向。「子どもの経験の総体」と捉え、体験と抽象、探索と探求、遊びと学びを行き来するアプローチ。「わたしをつくる」という授業が3年生からあるなど、ユニークな探求学習も数多くある。地域と連携・交流して子育てを行う活動にも重点を置く。

○長野県坂城高等学校 ～個別最適化と地域連携型探究～

1910年創立。経済産業省「未来の教室」の実証事業に手を挙げ、採択された地方のスタンダードな公立校。教科横断・地域連携型の探究活動、ICT活用による個別最適化学習など、教育課程編成・実施のユニバーサルデザイン化を進めている。21年、デジタル庁の「デジタル社会推進賞」最優秀賞を受賞した。

教育委員会

○長野県教育委員会 ～ICT活用で探究的な学びの追求～

「ICT学習環境整備事業（通称、^{アイシテ}AICTE事業）」など、ICT活用推進を強化。同事業は、県が複数選択したICT教材のなかからの教材導入について、導入トライアルを公費で負担。今後も、「探究県」長野の学びをテーマに、「探究を中核とした学校づくり」の推進を考え、民間との連携も含めて、さまざまな取り組みを行う。

伊那市立伊那小学校

- ・「子どもは、自ら求め、自ら決め出し、自ら動き出す力を持っている存在である」という子ども観に立ち、子どもの求めや願いに沿って主体的に学習に取り組む「生きる力」を育てている
- ・ 通知表、時間割、チャイムなし
- ・ 総合学習・総合活動を中核に位置付けた学びを実践
例) ヤギや豚、馬などの動物の飼育、地域の食文化や歴史の探究など
- ・ 中核活動に、教科の学習をリンクさせて、教科学習を計画している
- ・ 伊那小の学びを目的に、移住してくる家族が多数
※児童数が、毎年、40人程度減少しているが、移住による児童が40人程度おり、児童数はずっと横ばい（サイト「SMOUT」22年度 伊那市 移住人気 全国1位）

軽井沢風越学園※学校の方針で取材及び電話での問い合わせはお断りしています。

- ・「どんな子どもにも幸せな子ども時代を過ごしてほしい」という願いのもと、「学びのコントローラーを子ども自身がもち、自分で操作する姿」をめざし、学習者中心の探究的な学びを実践
- ・ 幼稚園と義務教育学校における3歳から15歳までの12年間を通して、一人ひとりの「～したい」から始まる探究の学びを大切にしている。
- ・ 令和5年3月15日に長野県教育委員会と連携協定を締結し、探究を中核とした学びを実践する教員を育成する研修プログラムの研究・開発を連携実施。

軽井沢風越学園との連携協定について

1 目的

両者が連携し、学校教育の充実と教員の資質向上において緊密な協力関係を築くことにより、探究を中核とした学びの充実を目指す。



2 連携内容

- ・ これまでも県教育委員会の教員を研修派遣してきており、令和5年度は2名を派遣する。
- ・ 「探究を中核とした学びを実践する教員」を育成する、研修プログラムの研究を行う。
- ・ 先進的な学びへの改革に取り組む自治体や学校に対して、県教育委員会及び軽井沢風越学園が連携を図り、相互視察等を通じて、探究を中核とした学びの充実を進める。

3 その他

「探究の学び」について研究する市町村教育委員会を公募し、選定した4教育委員会（佐久市、伊那市、大町市、松本市）の中から、風越学園との連携による教員研修プログラム開発の実証研究に取り組む教育委員会として松本市教育委員会を指定した。

2021年 デジタル社会推進賞

プラチナ賞

坂城高校 及び 長野県教育委員会



地方の全日制普通科・全校生徒203人の公立高校において、一人一台端末やAI活用型学習アプリなどデジタル学習教材を用いて、「個別最適な学び」と「地域連携型探求活動」に取り組む。

生徒の学力向上に加え、探求力や主体性の向上、そして教員の意識改革に成功。



個別最適な学び

- 1人1台端末、AI学習アプリ「すらら」を活用し、自分のペースで自分の到達度に合わせた学習が可能に
- 教員は生徒の進捗状況をリアルタイムで把握し、一人ひとりに適切な支援・サポート
- 個別の学習とグループ学習（学び合いや対話等）を組み合わせ、「主体的・対話的で深い学び」の実現へ



成果（個別最適な学び）

- 意欲的、主体的に学習に取り組む生徒が増加
- 特に国語・英語・数学で教科診断テスト等の得点率が上昇
- 家庭学習時間が増加（臨時休校中もすららを使用し学習）

（参考）坂城高校教育活動アンケートの結果（抜粋）2021年7月

質問	回答%
すららを用いた授業で「わかった」は増えたか？	「わかった」と思うことがこれまで以上になった 96.1%
授業の進め方が自分に合っているか？	「これまで以上に自分に合っていた」 94.7%
すららで学習したことは、他の学習に比べて覚えやすいですか？	「覚えやすい」「まあ覚えやすい」 66.8%
「すらら」を使った学習は、使わない学習と比べ楽しいですか？	「楽しい」「まあ楽しい」 74.7%

地域連携型探究学習

- 生徒が探究の一連の過程（課題設定→情報収集→フィールドワーク→分析・まとめ→プレゼンテーション）で1人1台端末をフル活用
- 教員に加え、大学生がファシリテーターとして、生徒の考えや対話を引き出しながら伴走



令和4・5年度

アイシテ
AICTE事業
AI×ICT×EdTech

長野県教育委員会

目的

AI×ICT×EdTechによるプログラミング教育と探究的な学び及びAI活用人材の育成の充実を図るために、EdTech教材を公費で導入し、学校における学びのDXを進めます。これにより、各校が独自に学びの改革を推進する素地をつくり、その取組を長野県全体で共有・活用することで、長野県教育における**学びのDX**を進めます。

情報の学びのDX

現状

- ・ 令和4年度から高校の新学習指導要領で情報Ⅰが必修科目化
- ・ 令和7年度大学入学共通テストで出題科目に「情報Ⅰ」が加わる
- ・ 学習内容はプログラミング等が含まれる。

課題

- ・ 教員 「情報Ⅰ」の指導力向上を目指した授業支援
- ・ 生徒 プログラミングの学習環境の提供

課題解決のためのEdTech教材

- ・ Life is Tech!Lesson
- ・ Monaca Education



探究の学びのDX

現状

- ・ 総合的な探究の時間等で探究的な学びが浸透しつつある。
- ・ 生徒の非認知スキルなど「探究する力」を育成するカリキュラムが実践される一方で、取組状況に差がある。

課題

- ・ 学校 探究のテーマの拡大と学習の深化

課題解決のためのEdTech教材

- ・ Inspire High

- ・ 先進的な探究プログラムを提供する株式会社Inspire Highと公立自治体では全国初の連携協定を締結
- ・ 教育分野で緊密な協力関係を築き、探究学習等の質向上と推進を目指す



AIの学びのDX

現状

- ・ AI活用人材の育成が求められている。
- ・ AIを専門的・先進的に学べる学校が長野県にない。

課題

- ・ 学校 AIを活用した課題解決のカリキュラム

課題解決のためのEdTech教材

- ・ AI Challenge

